SPORTS　FOR　ALL　～　スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に　～

Monthly Report

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.145　/　2018 May.

東北初　仙台大学女子クリケット部発足

写真左から、鹿野あかり選手（主将）、小笹優奈選手、小林みなみ選手、遠藤学長、仲野部長、伊藤未玖選手、皆川雛選手、小林七彩主務

5月18日（金）に本学の管理・研究棟（A棟）2階大会議室にて東北初となる仙台大学女子クリケット部の発足と5月3日から6日に栃木県佐野市で行われたクリケット女子日本強化選手団とナショナルアカデミーの練習報告会が行なわれテレビ局・新聞社計5社が来訪しました。

クリケットとはバットとボールを使う野球の原型とされる競技であり、英国発祥で上流階級が楽しむ「紳士のスポーツ」として各国に広がっています。競技人口もサッカーに次ぎ世界2位で南アジアなどで盛んに行われていますが、日本の競技人口は少なく、大学女子の部活動では全国で7校目。本来1チーム11人の競技ですが、本学のクリケット部は現時点で6名（選手は5名）。鹿野あかり主将は「全員が初心者で、試合ができる人数を集めることが目標。試合時間は5時間を超えることもあるハードな競技ですが、もぐもぐタイム（試合の合間に軽食を取ること）もあるので私達からクリケットを広めていきたい。」と普及に意欲を燃やしました。

5月3日から6日に「クリケットの町」栃木県佐野市で行われたクリケット女子日本強化選手団とナショナルアカデミーの練習はすでに5名が参加し、鹿野あかり主将と小笹優奈選手は日本強化選手団にも選抜されるなど、2月に行われる国際大会の出場を目指す。小笹優奈選手は「日本代表候補に選ばれたからには、世界のテッペンを目指したい。また 早く世界の選手達と試合をしたい。」とコメントし、部長の仲野教授も「部員数を確保できたら、単独チームを作って、他大学と試合がしながら焦らずゆっくりと着実に部として発展していければと思います。」と 抱負を述べました。

〈 目　次 〉

東北初　仙台大学女子クリケット部発足	1
内閣総理大臣主催「桜を見る会」へ遠藤学長と佐々木琢磨新助手、星泰雅選手が招待される 「平成29年度春季海外留学・研修報告会および平成30年ど海外留学・研修合同説明会」を開催しました	2
「第28回仙台国際ハーフマラソン大会国際姉妹都市交流会」に参加 2年ぶりの全国大会でのチャレンジ！ ～仙台大学塾～ 「新任者事務研修会」を実施	3
仙台89ERS2017-2018シーズン スポンサー感謝の集い	4
「宮城県警察官募集に関するイベント」を開催 学校法人朴沢学園「永年勤続表彰式」がおこなわれました	5
スポーツ情報サポート研究会活動報告会を開催 「一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会」「全国体育系大学学長・学部長会議総会」が開催～体育系大学に今、求められているものとは～	6
仙台大学同窓会「社員総会」開催 健康づくり運動サポーター認定証授与を開催	7
健康管理センター佐藤実季さん ～青年海外協力隊看護師として医療支援、職場環境改善（以下：5S 活動）をウガンダ共和国「カバレ地域中核病院」で実践～	8
「高校スポーツの安全を守る」	9

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室
直通　0224 - 55 - 1802

桜を見る会に招待された佐々木選手（左）星選手（右）

内閣総理大臣主催「桜を見る会」へ遠藤学長と、佐々木琢磨新助手、星泰雅選手が招待される

４月２１日（土）新宿御苑において内閣総理大臣主催の「桜を見る会」が催され、遠藤保雄学長及びデフリンピックで活躍した佐々木琢磨新助手と星泰雅選手（体育学科２年）が招かれ出席しました。両名と会場で合流した遠藤学長は、デフリンピックで活躍した他の選手たちとも懇談しました。

佐々木琢磨新助手は「安倍首相をはじめ、平昌五輪メダリストや芸能人など有名な方々とお会いでき光栄でした。2019年３月にエストニアで行われる第１回世界ろう者室内陸上競技選手権への出場権を獲得できるよう今後も精進します」と決意を述べ、星泰雅選手は「このような会へ招かれ一生の思い出になりました。3年後のデフリンピックでも成績を残し、再び招待いただけるような活躍ができるよう日々頑張ります」と話しました。

遠藤学長は「オリンピック・パラリンピックに注目が集まる中、デフリンピックで活躍した日本代表選手たちが会へ招かれたことは大きな意義がある。この分野で日々、耳が不自由ゆえにその壁と向き合う若者に対し、日本政府としても彼らの日常を見つめ理解と協力を求めていることを実感した。青空の下、デフリンピックで活躍した選手らの明るい笑顔は、聞こえぬ壁を乗り越えていこうとする、その心意気が示されている。」と話しました。

研修報告会の様子

「平成29年度春季海外留学・研修報告会および平成30年度海外留学・研修合同説明会」を開催しました

4月24日（火）に「平成29年度春季海外留学・研修報告会および平成30年度海外留学・研修合同説明会」を開催しました。今回の春季海外留学・研修では、8つのプログラム（韓国・龍仁大学校/中国・瀋陽師範大学/台湾・台東大学/アメリカ・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校/アメリカ・ハワイ大学/デンマーク・ノアフュンス国民大学、リレベルト大学/フィンランド・カヤーニ応用科学大学/ニュージーランド・カンタベリー大学、CCEL）が実施され、それぞれのプログラムに派遣された学生から研修成果について報告がありました。また、国際交流センターから、平成30年度に実施が予定されている海外留学・研修プログラム内容について参加を検討している学生に対し説明しました。

＜報告　事業戦略室＞

参加者で記念撮影

「第28回仙台国際ハーフマラソン大会 国際姉妹都市交流会」に参加

5月13日（日）に江陽グランドホテルにて、「第27回仙台国際ハーフマラソン大会 国際姉妹都市交流会」が開催されました。姉妹都市からは、長春市（中国）、ダラス市（アメリカ）、光州広域市（韓国）、台南市（台湾）リバサイド市（アメリカ）、レンヌ市（フランス）、ミンスク市（ベラルーシ）、アカプルコ市（メキシコ）、の8都市の参加がありました。本学は、中国長春市にある東北師範大学および吉林体育大学と連携しており、交換留学生などの交流を行っています。ベラルーシのミンスク市とは、2020東京オリパラ事前合宿地として、ベラルーシ新体操チームの誘致が決定され、今年7月に第一回目の事前合宿を本学で実施する予定です。

今回の仙台国際ハーフマラソン大会の招待選手の中、ミンスク市のユリア・タラセヴィチ（Yuliya Tarasevich）選手（女子）が47位という順位を獲得しました。

懇親会は終始和やかな雰囲気で、本学からの参加者が参加選手団の方や宮城・日中友好協会、ベラルーシ協会、韓国領事館の方々とも交流を深めることができました。

＜報告　馬佳濛准教授＞

宮城県代表の仙台大学柔道塾

2年ぶりの全国大会でのチャレンジ！

～仙台大学柔道塾～

5月5日（土）こどもの日に、柔道家たちの憧れの場所であり、日本柔道総本山である『講道館』において、『第38回全国少年柔道大会』が開催され、厳しい宮城県予選を勝ち抜いた仙台大学柔道塾のちびっこ柔道家たちが県代表として大会に出場してきました。

この大会は、数ある少年柔道大会の中でも最も歴史があり、過去には本学教授である南條充寿塾長も出場し、入賞した経緯があります。

試合は5年生、6年生で5人のチームを組み、団体試合により勝利を争います。

結果は熊本県代表に0－3、新潟県代表に1－4で敗れ、惜しくも予選リーグ敗退でしたが、頼もしく成長した塾生たちを見て、この全国大会での経験が今後の子供たちの自信となり、もっと「柔道を頑張ろう」「柔道が好きになった」につなげていこうと、柔道塾スタッフ一同決意を新たにしているところであります。

＜報告　南條充寿現代武道学科長・教授＞

午後から明成ラボの施設を見学する様子

「新任者事務研修会」を実施

4月25日（水）学校法人朴沢学園法人事務局会議室にて、本学園に新規任用された事務職員7名に対して、SDの一環として職務上必要となる資質涵養及び業務遂行等の基礎知識の習得を目的とする研修会が行われました。

始めに朴澤理事長・学事顧問から、これまでの本学園の歴史を話され、まもなく140周年を迎えるにあたり「学生の人口が減っていく中で教職員1人1人何が必要か考え、それぞれの分担と仕事を持ち、視野を広く持って常に大学や高校の流れを頭に入れて仕事に取り組んでほしい」と訓示を頂きました。

午後は、明成バスケラボやATルーム（川平キャンパス）などの施設見学なども行い、充実した1日となりました。

89ERSの選手と記念撮影

今シーズンで引退された志村選手と朴澤理事長・学事顧問

「仙台89ERS 2017-2018シーズン　スポンサー感謝の集い」

5月15日（火）勝山館にて開催された「仙台89ERS 2017-2018シーズン　スポンサー感謝の集い」に朴澤理事長、佐野常務理事と出席させていただきました。会場には約80社ある公式スポンサーの中からおよそ50名の方々が集まりました。

今シーズンを振り返るとシーズン前半は勝率5割に留まり、1月にはヘッドコーチが解任されました。シーズン後半新任ヘッドコーチのもと巻き返しをはかりましたが、なかなか勝率を上げられず、最終的には勝率3.5割という厳しいシーズンとなり、B1リーグへ1年で復活、と目標を掲げて始まったシーズンですが、残念ながら来季もB2リーグで戦うことが決まっています。4月には球団代表の中村氏の退任、新社長には楽天野球団部長の渡邊氏が就任することが発表され、そしてその数日後には仙台89ERSの顔であり続けた志村雄彦選手の引退も発表されました。とても変化の多い、怒涛のようなシーズンだったのではないでしょうか。

感謝の集いは中村社長の挨拶から始まり、スポンサー企業へ感謝の言葉を述べられていました。その後新社長の渡邊氏の挨拶もあり、来季に向けての覚悟と意気込みをお話されていました。乾杯のご発声は朴澤理事長・学事顧問がされました。ご挨拶のなかで朴澤理事長・学事顧問は、明成高校卒業生であり現在アメリカでプレーをする八村選手が所属するゴンザカ大学があるワシントン州スポケーンという小さな町の紹介をし、「20万人しかいない小さな町でバスケットボールを応援している。100万人都市である仙台であればもっとバスケットボールを応援できる。」とスポンサー企業として来季へかける期待をお話されていました。

感謝の集いは選手がスポンサー企業のテーブルを回り挨拶をする、という形がとられていますが、明成高校卒業生の宮本選手と白戸選手も朴澤理事長・学事顧問に挨拶をしていました。二人は来季も仙台89ERSに所属することが決まっています。朴澤理事長・学事顧問は二人に「来季はもっと活躍しているところが見たい」と激励されていました。石川選手とは話ができませんでしたが、「来季も仙台89ERSで活躍して欲しい」と期待されていました。朴澤理事長・学事顧問は他にも新体制の経営陣とお言葉を交わしたり、他企業の皆様とご歓談されていました。私も個人的に交流する時間を頂き、筆頭株主となった株式会社ボディープラスインターナショナルの須磨氏、今野不動産社長の今野氏、河北新報社スポーツ事業部の森田氏とお話をさせて頂きました。

今回の集いで球団側は来季に向けての具体的な方針を発表することはありませんでしたが7月より本格的に新体制となる、ということで、どのような新生89ERSとなるのか楽しみです。筆頭株主のホルトン会長はカナダ出身の日本人ハーフの方で、日本の文化や風土を理解しながらも海外仕込の斬新な企画をどんどん形にしている、とても有能な経営者です。私も仙台89ERSに所属していたころからご支援を頂いており、ホルトン会長がこれからどのようなチーム作りをしていくのか、楽しみでありながら、きっと今までにない、最高の形を作り上げるであろうという期待に心が弾みます。

仙台89ERSを離れて5シーズンが過ぎ、元チームメイトはもういなくなってしまいました。しかしながらフロントスタッフは残留するとのことで、やはり数名の同僚がこれからもチームを支えていきます。私としても彼らスタッフと新経営陣をこの先も一スポンサー企業の関係者として、そして一バスケットボールファンとして応援し続けようと思います。最後になりましたが、今なおチームとこのような交流を持たせていただける環境と、このような素晴らしい会に出席させて頂く機会をくださいました朴澤理事長・学事顧問をはじめ関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。

＜報告　白坂広子助手＞

パトカーを体験する学生

宮城県警察官募集の話を聞く学生

「宮城県警察官募集に関するイベント」を開催

5月16日（水）11：30から学生食堂前にて、宮城県大河原警察署主催で「宮城県警察官募集に関するイベント」が実施されました。当日は、5月にもかかわらず気温がぐんぐん上がり、正午までに28度に達しました。学生食堂入り口付近では、強い日差しが降り注ぐ中、学生たちが楽しそうにパトカーに乗車し、サイレンを鳴らしたり、拡声器を使用するなどして乗車体験を行いました。また、来学された13名の警察官の方には様々な制服姿でおいで頂き、業務によって服装も異なる警察官の仕事がさらに身近に感じられました。特に志望度が強い学生については、学生食堂１階に設置した個別の相談コーナーにおきまして、たっぷりと時間を掛けて説明を頂きました。ある学生は、「これまで、近寄りがたいイメージがありましたが、とても身近な存在として感じられました」と話をしてくれました。平成30年3月の卒業生で宮城県警察に就職した卒業生は8名でした。現在、警察官希望者の減少が取り沙汰されておりますが、このようなイベントを通じ将来警察官を志す学生が1名でも増えてくれることを願っております。

＜報告　入試創職室＞

学校法人 朴沢学園「永年勤続表彰式」がおこなわれました

5月15日（火）法人事務局において永年勤続者への表彰式が執り行われました。永年勤続表彰は朴沢学園に25年勤務し学園の発展に寄与された教職員へ授与されるもので、本学園の創立記念日（5月6日）にちなみ5月に行われています。

今年度の永年勤続表彰授与者は、粟木一博教授、高橋弘彦教授、永田秀隆教授、番匠一隆事務局長補佐・兼スポーツ健康科学研究実践機構事務室長、松野礼子営繕管理室担当課長、佐藤裕子学生支援室グループマネージャー、土生佐多広報室担当課長の7名と、同法人で姉妹校の明成高等学校の教職員3名あわせて計10名で、朴澤理事長・学事顧問から表彰状と記念品が手渡されました。

式終了後は、朴澤理事長・学事顧問、遠藤学長、明成高等学校佐々木稲生校長先生、法人事務局の常任理事の方々と昼食をとりながら懇談し、四半世紀にわたる想い出話に花が咲きました。

当日大学の講義のため、やむをえず表彰式に参加することのできなかった永田教授と高橋教授には後日遠藤学長から表彰状と記念品が授与されました。

情報分析を行う普段の様子

スポーツ情報サポート研究会活動報告会を開催

5月1日（火）LC棟1階において、スポーツ情報サポート研究会の前年度（平成29年度）活動報告会を開催しました。本研究会には、情報分析や映像制作に役立つスキル獲得を目指すとともに、情報活用を通して部活動支援に取り組む学生約40名が所属しています。報告会当日は、日常的に活動している8グループ（硬式野球、メディア、男子ハンドボール、女子ハンドボール、男子バレーボール、男子サッカー、女子バスケットボール、男子バスケットボール（発表順））に分かれて発表しました。

情報戦略領域のグループは春季大会と秋季大会の比較を中心に、情報分析の手法や秋季大会までのプロセス、新年度の目標等を報告しました。マスメディア領域からは、学内だけでなく、開学50周年記念行事や地域スポーツイベント等の取材・制作活動を基に、1年間の成果と今後の改善点について報告がありました。

本研究会は発足して4年目を迎え、それぞれのフィールドにおける活動が定着してきました。現在は価値ある情報提供を目指し、週1回グループの枠を越えて実践事例を共有するなど、日々試行錯誤しながら活動しています。＜報告　溝上拓志助教＞

全国体育系大学学長・学部長会議総会の様子

「一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会」「全国体育系大学学長・学部長会議総会」が開催

～体育系大学に今、求められているものとは～

5月24日、新横浜において桐蔭横浜大学を幹事校とし、一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会の総会（会長日本体育大学　松浪健四郎理事長）が開催されました。この協議会は、体育系大学の経営者等で構成され、体育系大学全国体育系大学学長・学部長会議とともに体育系大学における教育研究並びに管理運営等に関連する事項について協議し、相互の連絡・理解・親睦を図り、体育の向上発展に寄与することを目的に活動しています。（事務局：日本体育大学）

総会では、近年、大学スポーツの活性化とそれを通じての大学の一体化の醸成などを狙いとした日本版NCAAの議論が高まりを見せていることから、スポーツ庁の幹部による「日本版NCAA」に関する講演が行われ、学生アスリートの学業充実化、スポーツを行う上での安全安心の確保、日本版NCAAのマネジメントの在り方、特に、その担うべき役割や大学スポーツにとってのメリットなどについて講話が行われました。

この講演を受け、総会において、松浪会長から、日本版NCAAの在り方とその機能については、、体育スポーツ系大学にとり大きな関心事項であり、協議会として検討協議していくことが必要との問題提起があり、今後、研究会を発足させて対応していくことが了承されました。

また、松浪会長から2040年には介護医療費が190兆円に達するとの見通しが出される中、そのコスト削減のためには健康年齢の引き上げ、元気な高齢者群の形成が急務であり、体育スポーツ系大学として「健康年齢引き上げのための研究会」の発足が提案され満場一致で了承されました。

なお、この総会において、機能に類似性・重複性のある「全国体育スポーツ系大学協議会」と「全国体育系大学・学部長会」の統合の検討を行うべきではとの問題提起があり、今後の検討課題になりました。

同じく、翌5月25日に全国体育系学長・学部長会議（事務局：順天堂大学）の第５1回総会が開催され、加盟する３３大学から３０大学５９名が参加しました。今回はスポーツ庁オリンピック・パラリンピック課長勝又正秀氏が「２０２０体育系大学に期待すること、求めていきたいこと」と題し講演され、その中で、スポーツ系大学に期待したいこととして、①学生アスリート支援、②2020東京オリパラでの、スポーツを見る、する、支えるという視点での学生ボランティアによる参画、③2020年後の東京オリパラのレガシーとしてのスポーツ参加人口の拡大への貢献という点を強調なさいました。特にその際、学生ボランティアの参加の必要性が大会成功に不可欠である旨、力説されましたが、ボランティアには交通費、宿泊費は手当てされないとのことから、地方の学生は安価な宿舎を確保し得ないならば対応しかねる等の問題が提起されるなど、活発な論議が展開され、抱える課題が浮かびあがりました。

来年は大阪体育大学を幹事校として総会が開催される予定ですが、関西地区では日本版NCAAの体制が他の地域に先駆けて整備されつつあること、オリンピック・パラリンピックという国家的行事が翌年に迫っており、体育スポーツ系大学の果たす役割について、重要な論議が展開されることが期待されています。

参加者での記念撮影

仙台大学同窓会「社員総会」開催

今年度の「社員総会」が5月12日（土）に仙台ガーデンパレスで開催されました。
全国26支部中、17支部の支部長、事務長、新設予定の1支部、同窓会本部からは理事、役員など11名、総勢29名が出席しました。 総会では、平成29年度の同窓会事業の他、50周年事業に関する報告並びに会計報告、平成30年度事業計画、予算について提案がありました。協議事項では同窓会として継続の事業計画、奨学金、同窓会館建設の件、支部活動、活動費等について議論がなされ、3月で任期満了の理事改選及び同窓会館建設に関しては支部の意見を集約し､同窓会の理事会で検討することになりました。

引き続き行われた懇親会では、朴澤理事長・学事顧問、遠藤学長も出席し、各支部の活動状況などの報告もあり、和やかな雰囲気の中で同窓生相互の交流が深められ、盛会のうちに閉会となりました。
＜報告　同窓会事務局＞

資格認定証書を授与された学生

健康づくり運動サポーター認定証授与式を開催

5月29日（火）に本学独自の認定資格である「健康づくり運動サポーター」（以下、健サポ）の資格認定授与式を開催しました。今回は平成29年度に養成講座と実習を終え、平成30年5月の臨時審査会で資格を認定された初級3名、中級1名の計4名に対して認定証書が授与されました。新たに資格を取得した学生は「参加者に寄り添ってサポートしていきたい。」「これから中級の資格取得を目指し、知識を深めていきたい。」「今回、教職員や地域の方々のおかげで中級を取得することができた。今後は、上級取得を目指していきたい。」など、感想や抱負を述べました。

健サポ養成は、これまで述べ554名が資格を取得しました。学内で実施される養成講座を受講後、現場実習として地域の健康づくり教室に参加します。行政区で開催される健康づくり教室に参加することで、地域の住民や高齢者と関わることができ、コミュニケーションスキルや指導力の向上が期待できると考えております。今回、資格取得した学生は次の級を取得するための講座を受講中で、今後も多くの学生がサポーターとして地域や社会で活躍できるように尽力してまいります。

＜報告　松浦里紗新助手＞

健康管理センター佐藤実季さん
～青年海外協力隊　看護師として医療支援、職場環境改善（以下：5S活動）をウガンダ共和国「カバレ地域中核病院」で実践～

公立カバレ地域中核病院の前で（右から6番目が佐藤さん）

青年海外協力隊（2016年１月～2018年1月）の2年の任期を経てこの4月に本学の健康管理センターの看護師として着任した佐藤実季さんに、派遣国「ウガンダ共和国」での青年海外協力隊活動のお話を伺いました。

佐藤さんは加美町出身で看護師を目指し白石女子高等学校看護科へ入学。早い段階から看護師として国際貢献することに興味を抱いていたそうで、看護師免許取得後は国内の病院勤務を数年経験したあとJICAボランティアへ挑戦。3回目の応募で「ウガンダ共和国」への派遣が決まりました。

ウガンダ共和国は、ナイル川の源流を有し、マウンテンゴリラ、ウガンダキリンなどの野生動物が多数生息し「アフリカの真珠」と謳われる緑豊かな内陸国です。国民の約40％が貧困とされ、乳幼児の死亡率や多産である妊産婦の死亡率が高いことから、保健医療の改善は国家の重要課題の一つです。

ウガンダ共和国で看護師として働くには、現地の看護師免許を取ることが必須であるため、ウガンダ人研修生などと英語に悪戦苦闘しながらも、3か月の実地研修（小児科・外科・内科・外来）を重ねウガンダ看護師免許を取得し、ルワンダ国境近くの「公立カバレ地域中核病院（日本が建設）」へ配属が決まったそうです。

病院には国からの一定の支給品があるものの慢性的なモノ不足から佐藤さんを通じ何とか支給が多くならないかと、「トイレが欲しい」「医療器具が欲しい」といった訴えが、はじめは多く寄せられたそうです。

しかしながら佐藤さんは、雑然とした薬品棚や倉庫、掲示板、一角には段ボールの山などが置かれた状況に、文化的な違いはあるものの、多くの「無駄」が散見していること、効率的な活用に至っていない現実があることこそが、慢性的なモノ不足ではないか？と考え、「5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・躾）」こそが、この病院にまず必要なことと感じ、まずは、この活動の推進に着手することにしました。活動の必要性を何度も繰り返し説くうちに、看護師で同僚でもあるピドソンさんが理解を示し、彼と5S活動の普及活動を始めたそうです。はじめはパワーポイントで作っていた指導教材も、インフラ設備が不安定な環境を考慮し、英語の「紙芝居」を作成し、看護学校など様々な場所で説明するなど病院の協力者とともに活動への理解を求めました。

当初は全く関心を示さない人、菓子を準備していないと参加しない人など研修会は毎回苦労しながらも自発的な5S活動を促し続けました。佐藤さんが挫けず必要性を伝え続けたことで、1年半が経過した頃には、効率的な仕事が定着しはじめ、整理整頓や分別をしたことで埋もれていたトイレも出現したり徐々に目に見える成果が現れ、医師・看護師長・事務職員・警備員など職種も年齢も様々な「カバレ病院・5S推進チーム」が発足することとなります。

紙芝居で５Ｓ啓発活動

その後も佐藤さんは、日本人が去ってもウガンダ国内で5S活動を実践し続ける病院への2泊3日のスタディツアーを行い取組みの素晴らしさを知ってもらいました。ツアーを通じ学んだことは活動を継続していく上でとても大きな自信となったそうです。

帰国間際には、ウガンダ共和国で開催された「Quality　Improvement学会」で推進チームの皆と５Ｓ活動実践に関するポスター発表も行いました。

帰国後、活動のキーパーソンとなった、ピドソンさんとのメールのやり取りの中で「公立カバレ地域中核病院」が5S活動の見本の病院として紹介されることも多くなったことを聞き、佐藤さんはとても嬉しいと話します。今後も国際貢献の活動報告や講演の依頼も多く予定されているそうで、学生へも、ひろく国際貢献活動の素晴らしさを伝えたいと意欲を示しています。

また、自然豊かなアフリカの大草原でイキイキと暮らす野生の動物のことなども、地域の子どもたちや学内の保育室の子どもたちなどに紹介出来る機会があったら嬉しいとも話してくださいました。

５Ｓ活動推進チームが発足

学会でピドソン氏が活動発表

カバレの街並み

ウガンダキリン

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol.2

「高校スポーツの安全を守る」をテーマに川平AT・S&Cレポート第2弾です。（担当：小野勇太）

新年度が始まり5月現在、川平ATRが対象とする明成高校運動部学生達は、高校総体に向けて練習に更なる意欲をもって取り組んでいます。本気で頑張るからこそ、スポーツ活動中には「ケガ予防」や「体調管理」の対策が非常に重要になります。そこで、川平ATRでは、川平ATRの利用の仕方のオリエンテーション(写真①)に加え、年に4回計画している傷害予防講習会の内の第1回として、対象部活動毎に開催しました。講習会のテーマは「コンディショニング」(写真②)です。コンディショニング(パフォーマンス発揮のためのすべての準備)について、運動・栄養・休養の3要素の重要性、ウォーミングアップ・クーリングダウンの目的、セルフケア(アイシング・ストレッチング)など具体的な例を用いて高校生に理解しやすく実施しました。ATはスポーツ傷害発生後の対応に関する専門家とも言えますが、私たちが特に意識していることは、『傷害予防』という、傷害の前にできることをいかに指導していくかということです。

①オリエンテーション

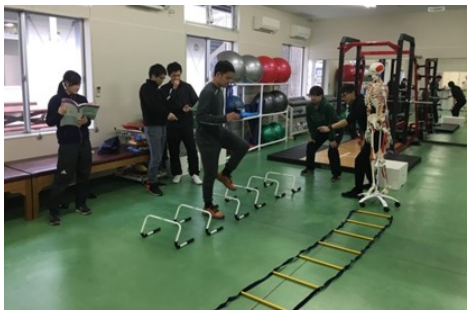
②傷害予防講習会

③試合帯同

また、私が担当している男子サッカー部では高校総体の仙台地区予選が始まり、正式な依頼を受け、試合帯同をしてきました(写真③)。試合帯同時のAT業務は、試合前のテーピング、試合中の緊急対応、試合後のケア、熱中症対策が主な活動です。今回の地区大会(3試合)では、コンタクトプレーに伴う鼻出血や大腿部打撲への対応はあったものの、大事に至る傷害発生はなく、無事県大会出場を決めました。また暑熱環境であったため、水分や塩分補給、クールダウン(アイシング)などの熱中症対策により、相手チームでは熱中症症状が疑われる選手が数名発生する中、十分な対策を行った明成高の選手たちは発生を抑えることができました。県大会ではまだまだ暑さが予想されます。暑熱環境下によるコンディション低下という事態を防ぐ為に、引き続き様々な「予防」活動を継続し、「高校スポーツの安全を守る」を念頭に活動を広げていきたいと思います。

川平ATR施設は日本スポーツ協会(旧日本体育協会)公認アスレティックトレーナーを目指す本学AT学生の現場実習地としての目的も担っています。私はその有資格者ということもあり、ATを志す仙台大学学生の指導(試験対策)にも昨年関わり(写真④、⑤)先日その試験結果が発表されました。難関資格ということもありこれまでなかなか複数の現役合格者の輩出が達成できていなかったのですが、平成29年度日本体育協会アスレティックトレーナー認定試験において、仙台大学ではこれまで最高の「現役合格3名輩出」することができました。仙台大学にはAT関連教員が9名在籍し、ATルームが大学・高校に存在する国内でも数少ない施設が整っており、ATを志す学生にとっては非常に素晴らしい環境であるため、今回の結果は必然とも思っています。これからの時代を担うATを教育していくことも、私たち川平ATRとしても重要な使命であります。今年度はこの結果を超えれるよう大学生指導についても精進して参ります。

④船岡ATRにて理論試験対策



⑤川平ATRにて実技試験対策

次回は、高校Strength & Conditioning の目的と実際について紹介予定です。（担当：浅野勝成）